

SDGs

Tourism for Tomorrow

「おもいやり」と「きずな」で
今、ツーリズムにできることを。



SDGsとは？



2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (Leave no one behind) ことを誓っています。
SDGsは開発途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても企業も含め、積極的に取り組んでいます。



あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する



レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの促進を図る



国内および国家間の不平等を是正する



都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする



持続可能な消費と生産のパターンを確保する



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

Tourism for Tomorrow

「おもいやり」と「きずな」で 今、ツーリズムにできることを。

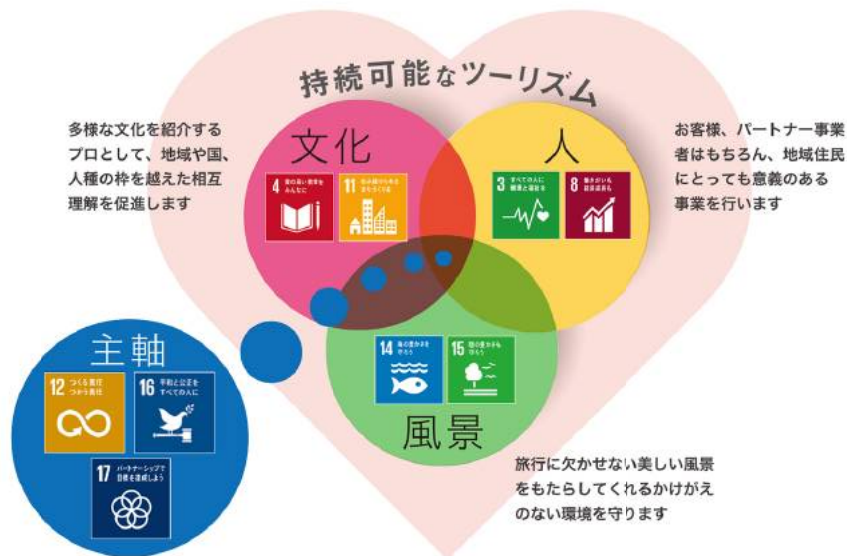
1905年創業の旅行会社として、旅行にはじまり、今日ではビジネスから教育まで。「交流に関するあらゆる分野のサポートを通じてお客様の求める価値の実現」を目指す日本旅行グループ。お客様の目的が異なっても、その価値の実現には、地球という大きな観光資源とそこに暮らす人々の幸福、そこから生まれる文化の豊かさが、欠かせません。

そこで、私達は、将来にわたり持続できる事業を見据えて、「人」「風景」「文化」をテーマに、今できることを考えながらSDGs達成に取り組んでいくことを宣言いたします。

日本旅行グループのSDGs宣言

1. 健やかで、不公平のない、豊かで活力のある生活を創ります。
2. 私たちに恵みを与えてくれる自然とその美しい景観を守ります。
3. 個々の文化への理解を促し、平和で公正な社会づくりに寄与、貢献します。

● 日本旅行のSDGsの位置づけ



● 日本旅行が取り組む各SDGsにおける指針

主軸



SDGsの目標を達成するために積極的により良い商品の開発に努め、社会課題の解決に寄与、貢献します。お客様のご要望を大切にしながら、ツーリズムの背景にある文化にも目を向け、持続可能なツーリズムのご提案に努めます。



教育旅行の平和学習や国際旅行（インバウンド）取扱における多様な国、文化との関わりなど。私達のビジネスが持続可能になるためには、恒久平和の実現は不可欠です。



私達ツーリズム業界はお客様と関係施設、運輸機関等を結び、旅行を通じ感動体験を提供することで発展してきました。これからも、この原点を大切に、すべての人々が幸福になれるよう、様々な課題の解決に寄与します。

人



お客様、関係施設、運輸機関そして日本旅行の社員が健康であり続けることが、ツーリズム業界が発展していくためには大切。そのために、健康経営を推進する旅行の提案や社内の働き方改革を推進します。



ツーリズム産業はホテル、運輸機関、観光施設、お土産などを販売する小売店まで多くの方が従事しています。私たちのビジネスが持続発展していくことで多くの人々が働きがいの持てる社会を実現します。

風景



ビーチリゾートでのアクティビティ、クルーズ旅行、氷見学など、海という観光資源にも私たちは支えられています。その豊かな海を守っていくことが私たちのビジネスを発展させ、最終的には地球環境を守ることもつながります。



陸上の豊かな資源を活用し私たちは商品を作り、お客様に提供してきました。また多様な生態系はかけがえのない観光資源であり、持続可能な利用をしていくことが不可欠です。

文化



旅行は、様々な文化を知り、学ぶことで相互理解、新たな交流、文化の融合、相互発展を促すことのできる教育の機会でもあります。子どもたちの教育を通して様々な文化の継承、発展を支援することにつながります。



世界文化遺産、日本遺産などの地域に根ざす文化財の保護を行い、交流人口拡大を促します。また、オーバーツーリズム問題などの地域課題に積極的に関わり観光客と地域住民が共存できる街づくりを支援します。



自治体や地元企業・学校・地域住民…あらゆるパートナーと協働しながら地域活性化・地方創生の実現に貢献

世界に先駆けて人口減少、高齢化、東京一極集中等の深刻な状況に直面する日本では、地域の持続可能性を確保するため、地方への新しい人の流れを作る取り組みの強化が求められています。また、地域経済の活性化を図るため、訪日外国人の増加によるインバウンド需要の獲得や農林水産物・食品等の輸出を通じた海外販路の開拓による「海外から稼ぐ」地域の取り組みが必要とされています。



地域の観光コンテンツの創出

行政機関への出向や地元企業との人材交流、ステークホルダーとのパートナーシップの深度化を図りながら、豊かな自然や歴史・文化、暮らし等、地域が有する観光資源を活用することで国内外の観光誘客や移住定住の促進、農山漁村の振興等に取り組み、持続可能な地域づくりに貢献します。

期待効果 関係人口の創出・拡大による地域課題の解決



欧米に向けた地域特産品プロモーション

毎年パリで開催される日本の観光物産博「セボン・ル・ジャポン」では、地域の特産品の情報発信、マーケティング調査等を実施しています。会場に集まるレストラン関係者や食材・雑貨卸業者、小売店のバイヤーに実際に体験・購入いただき、魅力を知ってもらうことで、地域の特産品の消費や輸出拡大を図るとともに、地域経済の成長・雇用創出にも貢献します。

期待効果 地域経済の成長・雇用創出

Tourism for Tomorrow

SDGs 活動事例

8 働きがいも経済成長も	11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任	17 パートナーシップで目標を達成しよう



世界の「食の不均衡」解消に取り組むNPO 法人と提携し中高生に世界が抱える食の課題を学ぶ機会を提供

世界人口約 70 億人のうち、約 10 億人が飢餓・貧困に苛まれている一方で、約 20 億人が肥満や生活習慣病に苦しんでいます。このような「食の不均衡」は、世界の食料問題の1つとされています。SDGs では、2030 年までに「飢餓をゼロに」することを約束しており、私達一人ひとりが食料問題について学び、アクションすることが求められています。

「TABLE FOR TWO (TFT)」学習プログラムの実施

食の不均衡の解消を目指す支援団体「TABLE FOR TWO」の活動を講演やテキストで学び、また、TFT プログラム導入企業を訪問して実際の活動も体験できる学習機会を中学校や高校に提供。検定試験も行い、食料問題とその取り組みについて啓発しています。今後は、大学や企業などへの提供も検討しています。

期待効果 社会を担う人材に、食料問題とその取り組みを啓発



Tourism for Tomorrow

SDGs 活動事例

3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに
15 陸の豊かさも守ろう	17 パートナーシップで目標を達成しよう
1 気候変動に具体的な対策を	2 清潔なエネルギーを
10 人や国の不平等をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう



TABLE FOR TWO (TFT) とは

世界の食の不均衡を解消するため、2007 年に日本で創設された特定非営利活動法人です。ヘルシーな定食や食品を購入すると、1 食につき 20 円の寄付金が TFT を通じて開発途上国の子どもの学校給食になる活動等を国内外の 800 を超える企業・団体等で実施。食堂から始まったプログラムは、レストランやスーパー、自動販売機やオンラインキャンペーン「おにぎりアクション」など、様々な広がっています。



様々な国籍・宗教の食文化を伝える
勉強会で異文化理解と国境を越えた
交流を支援

Tourism for Tomorrow

SDGs 活動事例



インバウンド需要の高まりや、ビジネスのボーダーレス化により、年々増加する訪日外国人。その中には、中東や東南アジアを中心としたイスラム教、インドを中心としたジャイナ教など、日本人とは異なる宗教・文化のバックグラウンドを持つ方も多くおり、滞在中に気遣う食においても、個々の訪日客に合わせたおもてなしが求められています。

勉強会の実施



<宗教上による食文化と
病気などによる食事制限>

- ・ジャイナ教 *命あるもの全て NG(肉・魚・卵・根菜類等)
- ・イスラム教 *豚肉・アルコール・ラード NG
- ・ベジタリアン *肉や魚 NG
- ・ヴィーガン *肉・魚・乳製品・卵等 NG*
- ・グルテンフリー *醤油含む
- ・ラクトースフリー (乳糖不耐性)
- ・糖尿病 *デザートや砂糖をつかった料理に対する対応
- ・セリアック病 *重篤なグルテン NG

世界各国から様々な国籍・宗教のお客様をお迎えし、安心して旅行をしていただけるよう各食事制限・アレルギーに関する勉強会や食事店との交渉を行っています。例えばジャイナ教は肉や魚、根菜類など命あるもの全てを食べることができず通常の日本レストランでは対応できないケースが多々ありました。そこでインド人スタッフがジャイナ教使用の食事メニューに対応できるインドレストランのオーナーと直接交渉を行うなど

安全面に配慮をしています。グローバルソリューション営業本部では社員の1/4に海外国籍の者がおり、2019年は40カ国のお客様対象のツアーを取り扱いました。また、ベジタリアンやグルテンフリーのお客様にも安心して食事を取ってもらえるよう、卓上には英語表記で食材の詳細を案内しています。

期待
効果

異文化理解を支援し、
国家間の平等、平和に貢献



出張時のチケットレス化を
実現するクラウドサービスで
法人のペーパーレス推進に貢献

身近なコピー用紙をはじめ、帳票類や掲示物など。ビジネスで消費される紙も、原料となる森林や生産に使用される水やエネルギー資源の減少、配送時のCO₂排出など、様々な面で環境への負荷が懸念されます。そのような中、オフィスのペーパーレス化が加速しており、デジタル技術による業務システムの構築により、様々なシーンにおいてその実現が求められています。

出張管理システム「出張なび」の提供



日本旅行では2001年からBTM(ビジネス・トラベル・マネジメント)ツール「出張なび」を運営し、600社を超える法人にご利用いただいています。「出張なび」の各種交通機関のオンライン予約をご利用いただくことで、出張のチケットレス化を実現できます。

期待
効果

ペーパーレス化に貢献し、
環境への負荷を低減

Tourism for Tomorrow

SDGs 活動事例



「出張なび」の
主なご利用メリット

- チケットレスだから受け取り不要&ペーパーレス
- 24時間いつでもパソコン・モバイル端末から利用可能
- 新幹線・特急がお得な専用運賃
- 飛行機・宿泊・レンタカーがお得な法人専用料金
- 立替不要で一括請求
- 承認機能で社内申請からチケット手配までを一元化

株式会社日本旅行 TiS和歌山支店

〒640-8331 和歌山県和歌山市美園町5-61

TEL:073-436-1388 FAX:073-425-1578

E-mail:hiroyuki_horinaka@nta.co.jp

担当：堀中寛之

 日本旅行公式「SDGsの取り組み」はこちら 

Click  <http://www.nta.co.jp/houjin/sdgs/>

 日本旅行の教育旅行ホームページはこちら 

Click  <http://www.nta.co.jp/education/>